

令和3年6月に改正された瀬戸内海環境保全特別措置法に基づき、瀬戸内海の関係府県に先駆け
令和4年10月に兵庫県栄養塩類管理計画を策定しました。

計画の概要 (令和4年10月策定)

- **対象海域** 大阪湾西部、播磨灘
- **対象物質** 全窒素、全りん
- **水質の目標値** 望ましい栄養塩類濃度 (県条例下限値～環境基準値)

水域 類型	全窒素 (mg/L)		全りん (mg/L)	
	条例下限値	環境基準値	条例下限値	環境基準値
Ⅱ	0.2	0.3	0.02	0.03
Ⅲ	0.2	0.6	0.02	0.05

対象海域



● **栄養塩類増加措置実施者**

民間工場 (5箇所)	(株)神戸製鋼所、関西熱化学(株)、(株)カネカ、サントリープロダクツ(株)、 多木化学(株)
下水処理場 (28箇所)	加古川下流浄化センター、揖保川浄化センター、垂水処理場、中部析水苑、 明石二見浄化センター 他23箇所

計画の推進 (令和5年度事業)

○ **県民の理解を深める取組の検討・実施**

- 「ひょうご豊かな海づくり県民会議」の設立
- 豊かな海づくりに関する普及啓発と意識調査の実施

○ **栄養塩類増加措置実施者の追加**

- 栄養塩類の供給が可能な工場・事業場の追加選定・調査実施

○ **新たな栄養塩類供給方策の調査・研究等**

- 施肥試験の実施・影響調査
- 栄養塩類循環メカニズムの解明



産学公民による連絡会議を設置し、団体間での情報交換、専門家からの指導・助言、企業との連携を進め、
 藻場等の再生・創出を促進するとともに、ブルーカーボンのクレジット化を検討し、県内企業等との取引を目指す。

令和5年度の取組内容

- 連絡会議の設置
- 藻場の現状把握と課題整理
- 藻場の再生支援方策の検討
- クレジット化に向けた調査手法の検討

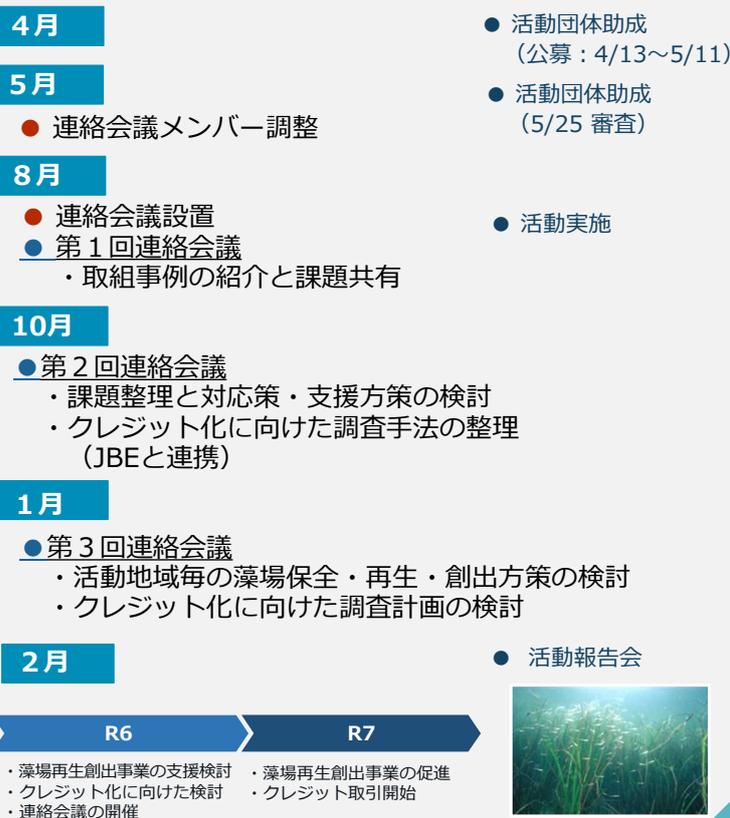


連絡会議の設置

- 学識者、市民団体、事業者、行政等からなる連絡会議を設置

区分	構成員
学識者	神戸大学特命教授 川井 浩史
	国立研究開発法人水産研究・教育機構 島袋 寛盛
	徳島大学客員教授 中西 敬
地域団体	須磨里海の会
	相生湾自然再生学習会議
	アマモ種子バンク
	江井ヶ島漁業協同組合
企業	兵庫県環境保全管理者協会
研究機関	兵庫県立水産技術センター
	兵庫県環境研究センター
国	環境省近畿地方環境事務所
	国土交通省近畿地方整備局
行政	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、 明石市、加古川市、高砂市、播磨町 姫路市、相生市、たつの市、赤穂市 洲本市、南あわじ市、淡路市
	兵庫県漁業協同組合連合会
	大阪湾広域臨海環境整備センター
	(公財)ひょうご環境創造協会
	事務局 兵庫県

スケジュール



第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会(R4.11)を契機として、豊かで美しい海づくりを目指し、公民連携による県民総参加の運動を展開するため、7月27日に「**ひょうご豊かな海づくり県民会議**」を設立しました。

活動方針

- 豊かな海づくりを県民総参加の運動へと発展させていくために、多様な主体が取り組む豊かな海づくり活動のネットワーク化を推進。団体相互の情報共有や活動の連携と普及啓発を積極的に展開。豊かな海づくりに向けた課題解決に会員みんなで行き届いた体制づくりを進める。

豊かな海づくりに向けた取組を推進

- 生物生産性回復に向けた栄養塩類供給策の検討
- 藻場拡大とブルーカーボンクレジットの活用検討
- 川のブルーカーボンとしての可能性検討
- 海洋プラスチックごみ問題と資源循環

設立総会



知事挨拶



パネルディスカッション

情報共有

プラットフォーム機能

取組のネットワーク化・発信力強化

会員間の連携促進

区分	設立時の主な会員
企業	栄養塩類増加措置 ・(株)神戸製鋼所・関西熱化学(株) ・(株)カネカ・多木化学(株) ・サントリープロダクツ(株)
	地産地消 ・(株)ワールドワン
	企業の森づくりSDGs ・川崎重工業(株)・兵庫ダイハツ販売
NPO等	・須磨里海の会 ・たじま海の学校
水産関係	・兵庫県漁業協同組合連合会 ・ひょうご豊かな海づくり協会
	環境関係(栄養塩類) ・ひょうご環境創造協会 ・瀬戸内海環境保全協会
関係団体	森・川・里 ・ひょうご森林林業協同組合連合会 ・兵庫県内水面漁業協同組合連合会 ・兵庫県農業協同組合中央会
	消費者 ・生活協同組合コープこうべ ・兵庫県生活協同組合連合会
レジャー	・日本釣振興会兵庫支部 ・淡路島観光ホテル
大学・研究機関	・神戸大学 ・兵庫県立大学 ・神戸常盤大学 ・吉備国際大学
マスコミ	・神戸新聞社 ・サンテレビジョン ・ラジオ関西 ・兵庫エフエム放送
行政機関	・県(環境、農林水産、土木など)、沿海市町

2025年大阪・関西万博を契機に、地域の「活動の現場そのもの(フィールド)」を地域の人々が主体となって発信し、多くの人を誘い、見て、学び、体験する「**ひょうごフィールドパビリオン**」を展開しています。

瀬戸内海に関連するひょうごフィールドパビリオン

交流を生み出すフィールドパビリオンの展開を通じて、次代を担う人材を育み「豊かで美しいひょうごの里海づくり」を国内外に発信

Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs



ひょうごフィールドパビリオン



坊勢島 漁業見学&体験ツアー

海上で漁業見学を行うとともに、資源増殖のための栽培漁業や海底耕うんの取組について、島の漁師から直接学ぶことができる



カキ養殖と里と海の新しい資源循環をつくる「**めぐる** 環プロジェクト」

茂りすぎた竹を養殖筏に、使い終わればチップにして、畑の資材や土壌改良などに活用。陸から海、海から陸の資源循環を創出

瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典

- 豊かで美しい里海としての瀬戸内海の重要性を認識し、地域資源の宝庫である瀬戸内海の魅力を広く発信
- 次世代を担う若者を中心に、未来に向けて持続可能な取組をまとめ、「瀬戸内未来ビジョン」を提言

主催 環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議 等

時期 令和5年11月

場所 神戸国際会議場

テーマ：未来へのバトンパス(仮)

- 高校生によるポスターセッション
- 大学生等による瀬戸内未来ビジョンの提言
- 大学生、有識者等による瀬戸内未来セッション